会員のひろば

NO密な私の畑LIFE

札幌市医師会
クラースクリニック
五十嵐健史

今年、兼ねてから興味のあった野菜作りを始めた。今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ホームセンター等では野菜苗の売れ行きが好調だったようで、私もブームにのっていたようである。

初めての野菜作りだったが、欲張って、トマト、きゅうり、パプリカ、オクラ、枝豆、いんげん、かぶ、大根、野沢菜、春菊、じゃがいも、ゴーヤ、ズッキーニ、とうもろこし等、あれもこれもといろいろと育てている。食卓は自家製野菜がずらりと並び、健康的な食生活を送っている（少々飽きているのだが、「また野菜か」とは、決して口にはできない…）。

私のお気に入りは、畑で収穫した野菜を使った浅漬け。きゅうり、大根、人参など、野菜を好きな形に切って、昆布、塩、とうがらしを入れて、浅漬け容器に入れるだけ。シンプルだが本当に美味しい。

今年は、何かと忙しない日を過ごしてきたが、畑には刺激やパワーをもらった気がする。収穫のため土から引っこ抜いた時の人参の香りは素晴らしい。畑の作業中に聞こえる虫や鳥の鳴き声も心地よい。水やりのあとに葉っぱに付いている水滴も美しい。二股大根も愛おしい。畑は忙殺された日々の中で、私の五感を刺激してくれる場所なのかもしれない。感謝である。また、畑にもご近所付き合いがあり、野菜の育て方をご指導いただいたり、採れたての野菜をおすそ分けしてもらったり、世の中、ソーシャルディスタンスが叫ばれる中で、人の温かみも感じられた。あとわずかで今年の畑も終わりの季節が来るが、来年はどんな野菜を育てよう、来年の畑はこんな風にしようなどなど、来年の野菜作りに向けていろいろと構想を練っている。

最後に、野菜たちは本当にたくましい。雨が降っても風が吹いてもしっかり根を張って成長している。枝が折れかかっていても実をつけている。そんな野菜たちの成長を見ながら、私は畑作業に勤しみ、松山千春の「大空と大地の中で」を口ずさむ。

「生きることがつらいとか苦しいだとかいう前に野に育つ花ならば力の限り生きてやれ」

すっかり、今年一番のお気に入りソングとなったわけだが、コロナに負けず、力の限り生きてやれ！と自分に言い聞かせているのかもしれない。